

# 「日蓮大聖人の教えとは」執筆にあたって

2016.11.15 廣田頼道

正信覚醒運動が起きて40年余りの時間が過ぎた。

創価学会は相変わらず世の中に存在しているが、創価学会が現世利益と権力追及の目的を持ち日蓮大聖人の教えをかたり悪用している団体である二面性を暴いて来た。

大石寺の主張する戒壇本尊絶対と貫主本佛血脈清浄絶対の矛盾も暴いて来た。

にもかかわらず、正信会は40年の時間が流れても、じゃあ日蓮大聖人の教えとは、どういうものなのかという「改正 日蓮正宗要義」を示す気配がない。前段階のテーブル作りも無いのだから、議論も無い、気配も無い。創価学会は論外として、大石寺の主張してきた教義を否定したという事は、自分達が教え込まれて来た事を自ら否定したということであり、これはおかしい、これは矛盾、これは辻褄が合わない、真筆と主張して来た御書も偽書であると、弁証法的には否定して来たけれども、帰納法的に、これが日蓮大聖人の教えであるとの、教義の骨格を示せないでいる。個人個人の法門の考え方がバラバラなのか、示す力が無いのか、重箱の隅を突つつく批判は出来ても、提案する事は出来ない烏合の衆なのか、これでは1000年待っても出てこないと思われる。

正信会が、将来隆盛を誇ろうが、細々と続こうが、滅ぼうが、この時代に正信覚醒運動が生まれ存在したという事実と意義は、日蓮大聖人の教えとはどういうものなのか、血脈相承不断清浄を主張する手前、封印してきた矛盾とタブーを、正信会は解放し問い直し、世に示したということが爪痕でも刻され未来の信仰者に継承されなければならない。私達がやらなければ誰もやらない、私達にしか出来ない、使命と責任が有るはずであります。この事を、これからも曖昧模糊にして整理して示せなければ、創価学会、大石寺との感情論、勢力争い、生活の為であったと後世の人々に評価されても致し方のない、歴史の中に具体的に何の实りも無く埋没し、やがて正信覚醒運動以前の元の木阿弥になって行くだけの事であり、

何で日蓮大聖人の法を一切衆生成仏の法と言えるのか、何を信じ、何を下種折伏し、何を広宣流布し、何で成仏出来るのか、成仏とは何なのか、・・・・・・を未来に向けて示すことなく生涯を閉じて良いのか。何故出家したのか。

今迄の偽り矛盾を抱えながら正統と主張する胡散臭い日蓮正宗のエセ教義に対して、元の木阿弥にならないとどめと、一切衆生成仏の法の復活の希望を私達が示さなければいけないと思います。

私は、その様なものを示す力量ある信仰者ではありませんが、今迄発表して来たものを整理し、説明の深さを平均化し、他人から見れば未完成のものでも、一切衆生成仏の法へ向かうものを示せば、それが一里塚の目安になり、未来の人々が、それを否定するか踏台にするかして、二里、三里と歩を進め完成に近づいて行く事が出来るのではないかと考え、「日蓮大聖人の教えとは」を書き始めようと思います。

平成33年は日蓮大聖人の御生誕800年です。生きていれば、それまでには書き、供えることが出来ればと思いますし、途上で死んでも、ここまでは示せたという状況が出来れば良いのではないかと思います。

今迄の日蓮正宗の教義書は専門用語で煙に巻いて、簡単な事でもむつかしように、重々しように表現し、何を伝えたいのか分からないで、仏教はむつかしいものであんだ達なんか簡単に分るもんじゃないんだよ。という感じで、知って欲しいのか知って欲しくないのか、流布させたいのか流布させたくないのか、最後には、相伝が何か知らない者が権威を振り回し、相伝にあらずんば知り難しと、捨て台詞を吐いて逃げる様な意味不明なものがほとんどでありました。私は、出来るだけ専門用語を使わず、世間の言葉で表現、説明する様に心掛け、中学生位の知識であれば、ああ日蓮大聖人の教えとはこういうものなんだと、信ずる人も、信じない人にも分かってもらえるような内容にしたいと思います。

今の世の中は止めようがない流れで、活字の本からドンドン離れて行っていますので、本として出版しないで、インターネットに項目ごとに、順次書いては載せて、途中の批判も受け入れ乍ら自己添削し、筆を進めたいと思います。そして誰でもプリントアウトして利用してもらえるようにしたいと思います。同時に英語に翻訳して、創価学会や、他宗教の資料、情報だけで、日蓮大聖人の教えを誤解している、日本語が分からない人々にも一助となるようにして行きたいと思っています。

内容項目は、教義の骨格をなす。「年表」「題目」「本尊」「戒壇」は勿論の事、「人法一箇」「師弟一箇」「戒壇本尊」「血脈相承」「大乘非仏説」「末法」「本佛」「成仏とは」「四箇の格言」「謗法嚴戒」「久遠元初」「本因妙」「一念三千」「丑寅勤行」「三衣（袈裟衣数珠）」「建長五年四月二十八日は宗旨建立ではない」「日蓮大聖人は絵柄綾織紋法衣・色指貫着用していない」「日蓮大聖人の勤行様式、日蓮大聖人は方便品世雄偈を読まれていた」等々を、順々に書き進め、最後に重要な関連順に並べ替える様にして、私としての完成にしていきたいと思っています。